

人社系研究支援ならではの プロセスを考える

2014年9月16日 第6回RA研究会セッション
「人社系分野への研究支援と研究評価～グッドプラクティスを探る～」

大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室
URAチーム 川人よし恵



大阪大学

22世紀に輝く

調和ある多様性の創造



大阪大学は研究型総合大学

—3キャンパスに人社系15部局、教員620名(全体の20%弱)

7/16 研究科

- 文学研究科
人間科学研究科
- 法学研究科
経済学研究科
言語文化研究科
- 国際公共政策研究科
高等司法研究科

8/28 研究所・センター

- 社会経済研究所
- 国際教育交流センター
- 総合学術博物館
- コミュニケーションデザイン・センター
- 金融・保険教育研究センター
- グローバルコラボレーションセンター
- 日本語日本文化教育センター
- 知的財産センター

● : 研究推進または支援に特化した部署または担当者あり



大阪大学のURA業務関連部署など

◎ 教職協働・学内ネットワークに基づく多彩な活動展開

大学の企画



URAによる企画
(国際的研究力の強化のため)

大阪大学
URAネットワーク



URAによる企画(FDやSD)



大学の企画

文系と理系、URAチームの支援業務は異なる？

URAチームの業務内容例

主な業務例 ／支援対象	[研究戦略推進 支援業務] ・政策情報等の調査・ 分析 ・研究力の調査・分析	[プレアワード 業務] ・外部資金情報収集 ・申請資料作成支援	[ポストアワード 業務] ・研究成果の国際的発 信支援 ・アウトリーチ活動支援	[その他] ・FD ・SD
自然科学系 研究				
人文・社会科 学系研究				

⇒大阪大学URAチームは、**分野問わず**幅広く支援業務を行っています。

文系と理系、支援ニーズは同じ？

人文・社会科学系研究は(一般に言われていることとして)

- 多額の研究費を必要としない
- チーム研究より個人研究が多い
- 論文より著書の出版を重視する分野・研究者が少ない
- 言語への依存度が高い／「国際化＝英語化」とはなりづらい
- 教養教育等の側面で社会からの要請が大きい

大阪大学においては、

- 人社系研究者によるURA認知度は低い
- 本部と部局、部局同士の“距離感”や“温度差”が存在する

人社系に対する支援ニーズは理系ほど定まっていない。
その背景に、ステークホルダー間の意識の乖離(次頁参照)が...

大阪大学における 人社会系研究を取り巻く状況(“国際化”を例に)

今後10年で世界大学
ランキングトップ
100に10校ランクイ
ン!(国立大学改革
プランより)



文部科学省



世界大学ランキング!
新たな研究評価指標!
研究力分析ツール!

(教育・)研究の“国際化”に対するプレッシャー

大阪大学内では研究の“国際化”に対する様々な意見が…

国際的評価軸による本
学の研究力強化を!
(2031年の創立100周年時、
世界トップ10の研究型総合大
学を目指す)



大学執行部

予算が…



部局執行部

「国際化＝英語化」
一辺倒というのは
納得できない…



人社会系の個々の研究者

自分の研究成果は、
もちろん英語論文で発
信していきたい!



何から、
どうやって
支援すべきなの
?



研究支援業務
担当者



人社系研究ならではの支援プロセス

“国際化”に限らず、学内では様々な意見が…

STEP①

現況把握と意識共有

現況から多様なステークホルダーが共有できる
メリット(ニーズ)を探り、目標を設定する

業務例A
オランダ調査

業務例B
議論の場づくり

業務例C
「本」アウトリーチ

STEP②

具体施策で目標達成

具体的な支援業務を通じて、目標を達成する

何から、
どうやって
支援すべきなの



研究支援業務
担当者

人社系研究支援業務例

STEP1 現状把握と意識共有

A.オランダの人社系研究に関する動向調査

- 目的: 人社系も強いオランダの大学等での調査を通じた、
 - ◎学内のURAネットワーク強化(本部URA・部局URA)
 - ◎研究評価指標・人社系支援業務・融合研究推進等について情報収集
- 調査対象: グローニンゲン大学、ライデン大学、
アムステルダム大学、オランダ王立人文・科学アカデミー



5回の事前勉強会を経て、インタビューに臨む(2014年9月3日、ライデン大学)

● Standard Evaluation Protocol 研究評価ツールキット

- ・6年に1度、大学の全研究者を評価する際の標準的評価実施要領
- ・どの指標を採用するかは分野ごとの裁量で決定
- ・評価指標としての社会的インパクトの重要度増

● 若手研究者向け競争的資金獲得支援 プレアワード業務

- ・キャリアデザインを意識した支援
- ・ワークショップ、模擬ヒアリング、To Doリスト等のツール

● 大学毎に定めた融合研究重点分野 融合研究推進

- ・トップダウンとボトムアップの意向を擦合せる分野設定プロセス

人社系研究支援業務例

STEP1 現状把握と意識共有

B.学内での議論の場づくり

- 目的: 様々な議論の場を作り、現況把握や意識共有を図る
- テーマ: 学術政策動向、欧州における人社系議論、科研費 等

8部局の
教職員・
URA等が
参加



Horizons for SSH視察報告会(2013年10月)

文学研究科の
教職員が
対象



文学研究科FD講演会(2014年1月)

CSCD等の
教員が
対象



コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)全学
FD研究会(2014年3月)

研究担当
理事補佐(理系)、
人社系8部局
の代表者で



研究担当理事補佐と人社系部局との懇談会(2014年8月)

人社系研究支援業務例

C.「本」という研究業績に着目したアウトリーチ活動支援

- 目的: 大阪大学の人社系研究を広く知ってもらう(社会的波及効果へ)

専門外の方との対話からゲスト研究者が刺激を受ける

- 概要: ゲストの編著書を入りに研究を紹介する「二頁だけの読書会」



- vol.1: グローバルヒストリー (2013年12月)
- vol.2: 人類学 (2014年4月)
- vol.3: 臨床哲学×サステナビリティ・サイエンス (2014年9月)

当日資料は特製ブックカバー
(裏に本の見開き二頁をコピー)



まとめに代えて

一人社系研究支援ならではのプロセスとは

STEP①

現況把握と意識共有

現況から多様なステークホルダーが共有できる
メリット(ニーズ)を探り、目標を設定する

STEP②

具体施策で目標達成

具体的な支援業務を通じて、目標を達成する

間を埋める・つなぐ
記録を残し、伝える
できれば 流れ・しくみを作る

時間をかけて
スキマをSchemeに…



ご清聴ありがとうございました

大阪大学 大型教育研究プロジェクト支援室
URAチーム 川人よし恵

kawahito@lserp.osaka-u.ac.jp

